第125回 夏の日の思い出

秋の声を聞いて、風もすこし涼やかに感じるようになった。今年の7月から8月初旬は信じられないような暑さが続いた。史上もっとも暑い7月というのも頷ける。例年、眠るとき冷房を少しだけ使うが、今年は朝まで冷房を入れっぱなしの日が続いた。気温だけでなく日差しもきつくなったように感じ、男性用の日傘を購入しようか迷った。暑さのレベルが尋常ではないが、8月になればお盆の墓参りがあるので、墓掃除は必ずやっておかねばならない。

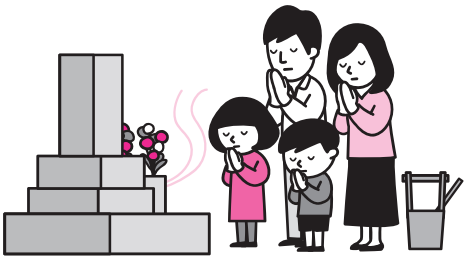
▼墓掃除も楽じゃない

私は鳥取県西部（米子市）で暮らしている。実家は100kmほど離れた鳥取県東部（鳥取市）の郊外にあるが、母が亡くなってから空き家のままである。墓地は実家のすぐ近くの山がかりにあり、木々に囲まれているので落ち葉や枯れ枝がたまる。今回は尋常でない暑さに恐れをなし、熱中症にならないように念入りに準備を整えた。まず、墓掃除は気温の低い早朝として、朝5時過ぎから墓掃除を始める。墓までの参道の両側の雑草が伸び放題なので草刈り機で除草もやる。午前中とはいえ炎天下での作業になると考え、電動ファン付きジャケット、わきアイス、スウェットシャツなどを購入した。もちろんスポーツ飲料などをアイスボックスに入れて万全の準備である。朝5時からの墓掃除は、気温も上がっておらず比較的スムーズにすすみ、1時間程度で終了した。次は参道の草刈りだが、この時期の雑草の成長はおそるべきものだ。やっかいなのはツタ系の植物で、背丈のある木や植物に巻き付き、つるを延ばし上へ横へと際限なく拡大する。太陽は宙天高くあり、直射日光をあびつつ作業する。今回はじめてファン付きジャケットを使ったが、脇の下にアイスゲルを入れる装具（わきアイス）を合わせて使うと、とても具合が良かった。長袖のスウェットも汗を吸収するので、べたつきがなく快適だ。30分でいったん休憩、冷房のきいた車内でしっかり水分をとる。

ファン付きジャケットなどが重宝し、例年の墓掃除に比べてずいぶん楽に作業できた。こういった熱中症を防ぐ作業着の進歩は本当に素晴らしい。ただ、墓掃除を終えて米子へ戻った後、翌日から身体の熱感、倦怠感、筋肉痛などがひどく、数日間は体調が戻らなかった。日頃から外作業に慣れていないためだが、墓掃除も楽じゃない。睡眠不足や作業環境によっては、いつでも熱中症の危険があると感じた。

▼墓守りと現代

私の家は浄土真宗で菩提寺は実家の近くにある。祖父の健在だった頃は、お盆には親族が集まって食事をして、菩提寺の和尚さんがお墓と仏壇を拝みにきていた。今では家族だけの簡易な墓参りのみとしている。いつまで遠隔地の墓掃除や生花の手向けができるのだろうかと思う。お盆の後は、すぐに秋彼岸がやってくる。また同じ作業をするのかと思うと、ちょっとうんざりする。昨今では、専門業者に墓掃除、生花、線香まで一括依頼する人もいるようだ。もう一歩進んで、墓じまいをして都会に墓を移動する人、永代供養を選ぶ人も増えていると聞く。半世紀前には想像できなかったような事態が日本中で起きている。さて、これからの自分の家の墓守りをどうするか、今後も悩みは尽きないだろう。



鳥取大学医学部
地域医療学講座
教授
谷口　晋一
（たにぐち　しんいち）